

2月18日 市の農業を引っ張っていく存在に

「令和2年度第52回大分県農業賞」の「企業の個人経営部門」で甲原龍雲さん・春美さん(安岐町馬場)が優秀賞を、「集落営農・むらづくり部門」で農事組合法人いけのうち(武蔵町池ノ内)が特別賞を受賞。関係者が市役所を訪れ、三河市長に受賞を報告しました。三河市長は「市内の生産者の頑張る姿を見て、うれしく思います。これからも市の農業を引っ張っていきましょう」と受賞者を称えました。



▲甲原龍雲さん。ミニトマトの生産性向上や後継者育成の取り組みなどが評価されました。



▲「農事組合法人いけのうち」の組合長の堀輝克さん(中央)、会計の徳丸晴敏さん。経営規模の拡大や担い手確保などの取り組みが評価されました。

2月9日 「緑の募金」で植物図鑑を寄贈

市林業水産課が行っている「緑の募金事業」の寄付金を活用して、市内の小中学校に植物図鑑などの書籍が贈られました。市内の学校を代表して国東小学校で贈呈式があり、児童会役員で6年生の豊田浩子さんが「たくさんの本をありがとうございました。この本を読んで、植物の勉強をしたいです」とお礼の言葉を述べました。



2月4日 押し花はがききれいにできた

小原小学校で、1年生と6年生の10人が参加して「押し花教室」が行われました。講師の野田武子さん(国東町小原)が、あじさいなどを使った「押し花はがき」の制作を指導。1年生の市丸煌さん(前列左端)は「はがきはママとおばあちゃんにあげます。きれいにできました」と自信作を手にして話していました。



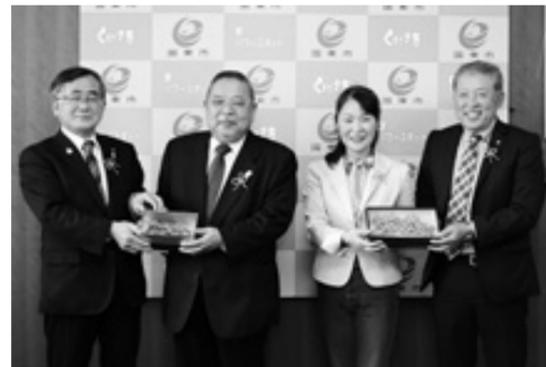
2月25日 地域交流活動が評価

熊毛地区公民館の溝井浩二館長が市教育委員会を訪れ、「第73回優良公民館表彰(文部科学省)」の受賞を加藤教育長に報告しました。これは、熊毛地区大演芸祭などの地域交流活動が評価されたものです。溝井館長は「地域の協力や先輩方のご尽力のおかげです。関係者の皆さんに感謝しています」と話していました。



2月22日 コロナ禍の差別や偏見をなくしたい

世界農業遺産旭日プロジェクトの清原正義さんと清原玲子さんが市役所を訪れ、七島蘭で作ったシトラスリボン75個を市と市議会に寄贈しました。シトラスリボンはコロナ禍での差別や偏見を防ぐ意思を示すもので、愛媛県で始まりました。清原正義さんは「運動を市内に広げていきたいです」と意気込んでいました。



2月10日 むさしカルティバルで作品展示

2月10日~14日にかけて、武蔵中央公民館で「むさしカルティバル」が開催されました。新型コロナウイルスの影響で舞台発表は中止となり、代わりに各団体による作品展示が行われました。武蔵町内を中心に27団体が参加し、約200名の来館者が子ども会の絵手紙や多肉植物の作品などを鑑賞しました。



2月10日 市内の子どもたちに観戦チケットを

大分県建設業協会国東支部の吉田徹哉支部長が市役所を訪れ、社会貢献活動の一環として大分トリニータの観戦チケット200枚を市に寄付しました。吉田支部長は「チケットの寄付は今年で6年目になります。サッカーをしている市内の子どもたちに、トリニータを応援してもらいたいです」と話していました。

